

2018年度 新専門医制度

神経内科

Neurology

キャッチコピー

“神経学を知る、神経学に親しむ、
そして神経学を楽しむ”

プログラム責任者：竹内壯介

連絡先：stakeuch@hosp.ncgm.go.jp

診療科の概要

- ・年間約350名の入院患者数があり、脳梗塞や痙攣・てんかん、髄膜炎・脳炎などの急性神経疾患を主として診療している。他にも神経変性疾患や末梢神経障害、筋疾患など幅広い症例を学ぶことができ、神経内科専門医取得に必須の疾患を経験することができる。
- ・定期的に脳神経外科・救急科・リハビリテーション科・放射線科との連携カンファランスを行っている。
- ・脳波検査や神経伝導検査・針筋電図などの生理検査の実施や読影、また神経・筋生検を学ぶことができる。
- ・日本神経学会教育施設、東京都脳卒中急性期医療機関に認定されている。

研修内容と到達目標

- ・ 総合病院・急性期医療機関としての特性を生かし、神経内科領域全般について実用性のある知識・技能を習得する。
- ・ 社会環境・保険制度を理解し、継続性のある診療を心がける。
- ・ 神経内科専門医取得を目標とし、将来神経内科指導医にあるいは神経科学研究に従事し、次世代の神経学の発展に寄与する。

ローテーション期間による到達目標

3
months

入院管理を通して、幅広い神経疾患を経験する。
神経学的診察法の習得、神経画像の読影を学習する。

4.5
months

神経救急患者の初療を経験する。
脳波や神経伝導検査などの神経生理検査の学習。

6
months

血栓溶解療法や血管内治療の適応を習得。
自ら神経生理検査や神経・筋生検を行う。

ローテーション期間による到達目標 重点研修タイプ1年型

- ・病棟担当医として、多彩な神経疾患の診療を経験し、神経疾患の基本を学ぶとともに画像検査や神経生理検査、神経病理検査を経験する。神経救急診療を担当して適切な診療の仕方を学ぶ。
 - ・脳波判読を学び、頸動脈超音波検査を担当する。脳波判読を学ぶ一方、ポータブル脳波計を用いて自ら記録する。
 - ・他の連携病院にて、当院では経験できない神経筋疾患の診療を経験することもできる。
 - ・学会発表・ケースレポートなどを行う。
-

ローテーション期間による到達目標 重点研修タイプ2年型

* 1年型研修目標に以下が加わる

- 神経疾患の基礎的な診断・治療技術に磨きをかけ、全ての神経内科的診療に必要な手技を修得する。
 - 神経疾患の診断・治療・手技について研修医への指導を行い、各症例の問題点を的確に理解し、ディスカッションを通じて
 - 適切な治療法を提示できる。専門医の指導のもとに臨床研修を行い、総会レベルの国内学会で発表し論文化する。
-